



第8回
外国人児童生徒教育
の法を知る③

こっちが前です！

こっちが窓です！

こっちが廊下です！

考える



南浦涼介

移動机110名 (1人掛け30名、2人掛け:80名)

1204講義室

8

9

10

11

12

13

14

15

ユニット3

教育方法を知り
的な授業の発想や思想
的なスキルを検討する

ユニット4

学校づくりを知り
多文化共生の地域や学校を
どのように構築するかを検
討する

業の
イプ

教科と
日本語

初期
指導

イン
ル
シ
ブ

学外
連携

共生
学校

学校
変革

小規
模校



第8回
ユニット3 外国人児童生徒教育
における授業の方法を知る④

初期の指導から日本語を教えること
をあらためてまとめる



南浦涼介

1

2

3

ユニット1

現状と課題を知り
「外国人の語学教育」ではないことを
知る

概要

受入
方法

歴史
と
移動

4

5

6

ユニット2

子どもたちを知り
ことばと文化の
多様性に対する対応
のあり様を検討する

言語
社会

認知と
教育

異文
化

7

8

9

10

11

ユニット3

教育方法を知り
具体的な授業の発想や思想
具体的なスキルを検討する

日本語
構造

授業の
タイプ

教科と
日本語

初期
指導

イン
クルー
シブ

12

13

14

15

ユニット4

学校づくりを知り
多文化共生の地域や学校を
どのように構築するかを検
討する

学外
連携

共生
学校

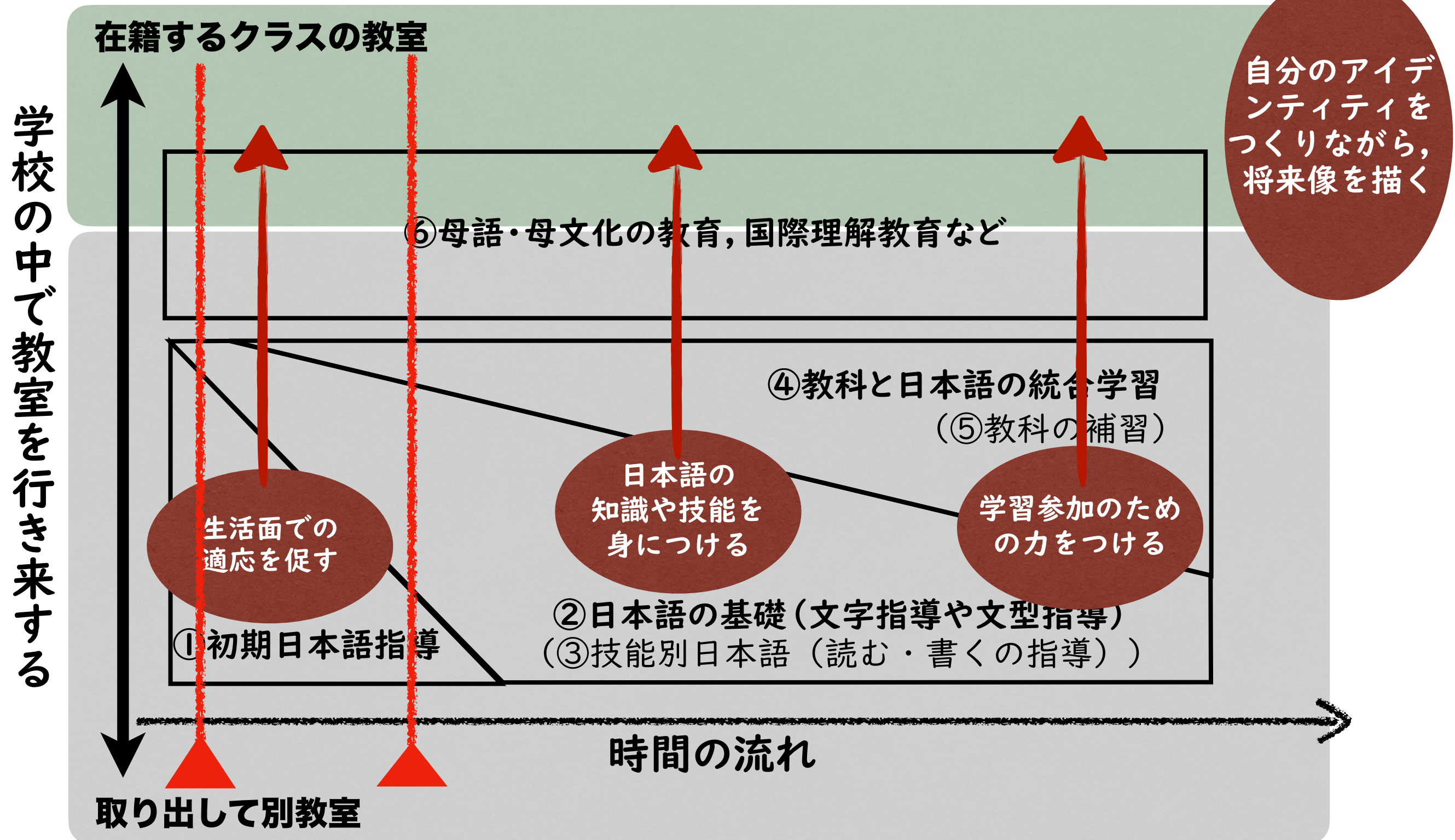
学校
変革

小規
模校

視点

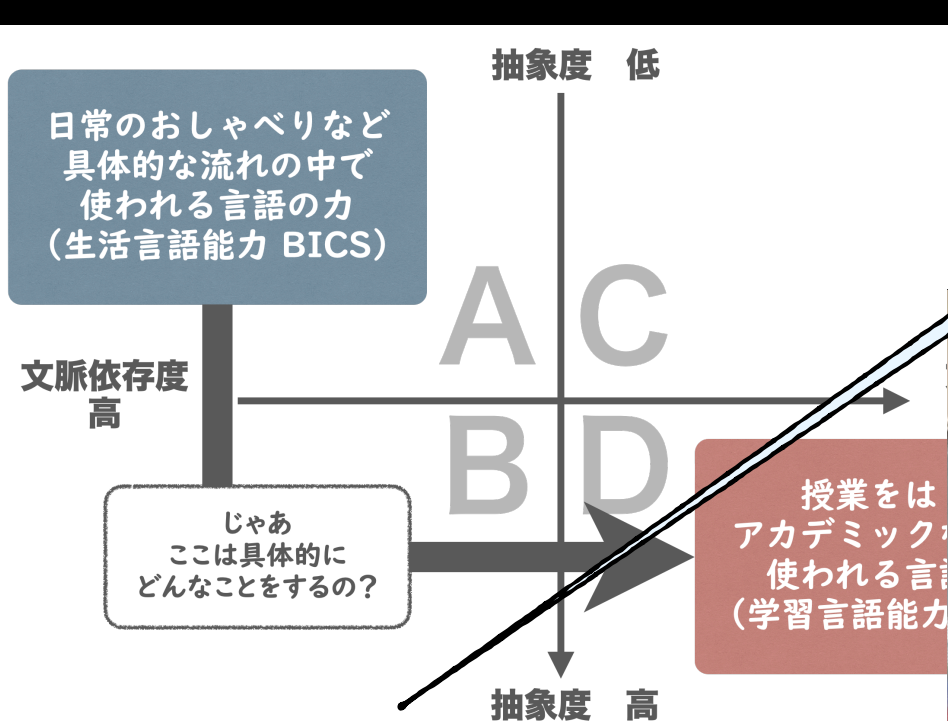
外国につながる日本語指導が必要な子どもの学びの全体図

外国人児童生徒も教室の中で包んでいくための教育方法の見取り図

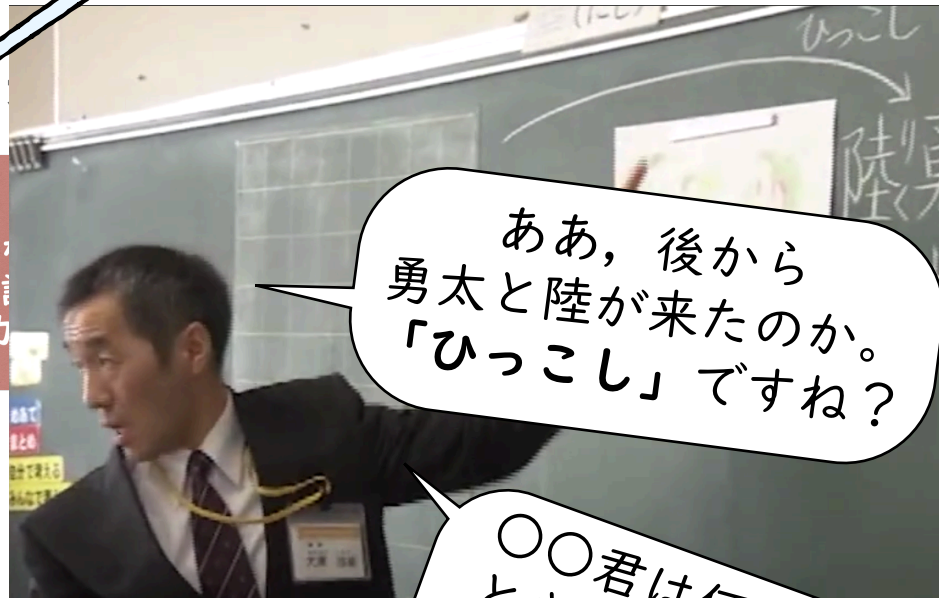


2 分析

「B」の状況を生み出すために、教師はどんな工夫をする？ ——「教科と日本語の統合授業を見る4つの視点」



②「教科を学びつつ日本語の側面にも気づかせる」を教師はどのようにして実現させているでしょうか？



ああ、後から
勇太と陸が来たのか。
「ひっこし」ですね？

〇〇君は何年生の
ときに「ひっこし
て」来たの？

ことばで括る

その状況を子どもたちと共有した後にそこに「ことば」を与えていく

強調する

その部分だけ大きな声にするなど「気づき」を促す

「私の話」にする

学習している子ども自身の話に置き換え、その言葉を使わせる

間違いに暗示的に気づかせる (リキャスト)

子ども 陸くんは悲しい思います

教師 そうか。陸くんは悲しい**と**思います……かあ。

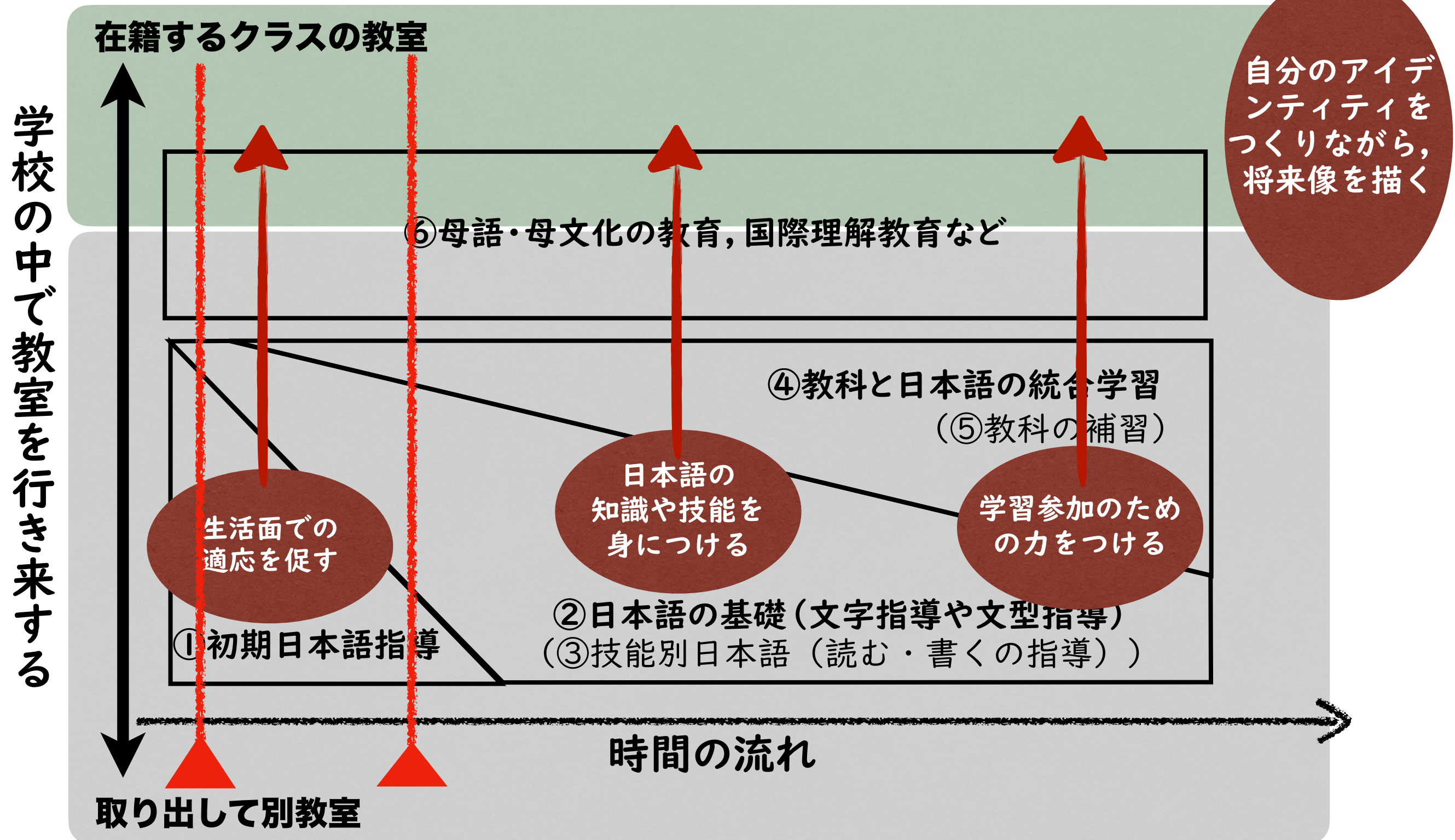
専門用語ではこうやって言語の側面に焦点を当てることを「Focus on Form」と言います
ただし、日本語の側面に拘りすぎると
焦点がぼやけることもあるので気をつけましょう！



視点

外国につながる日本語指導が必要な子どもの学びの全体図

外国人児童生徒も教室の中で包んでいくための教育方法の見取り図



1 見る

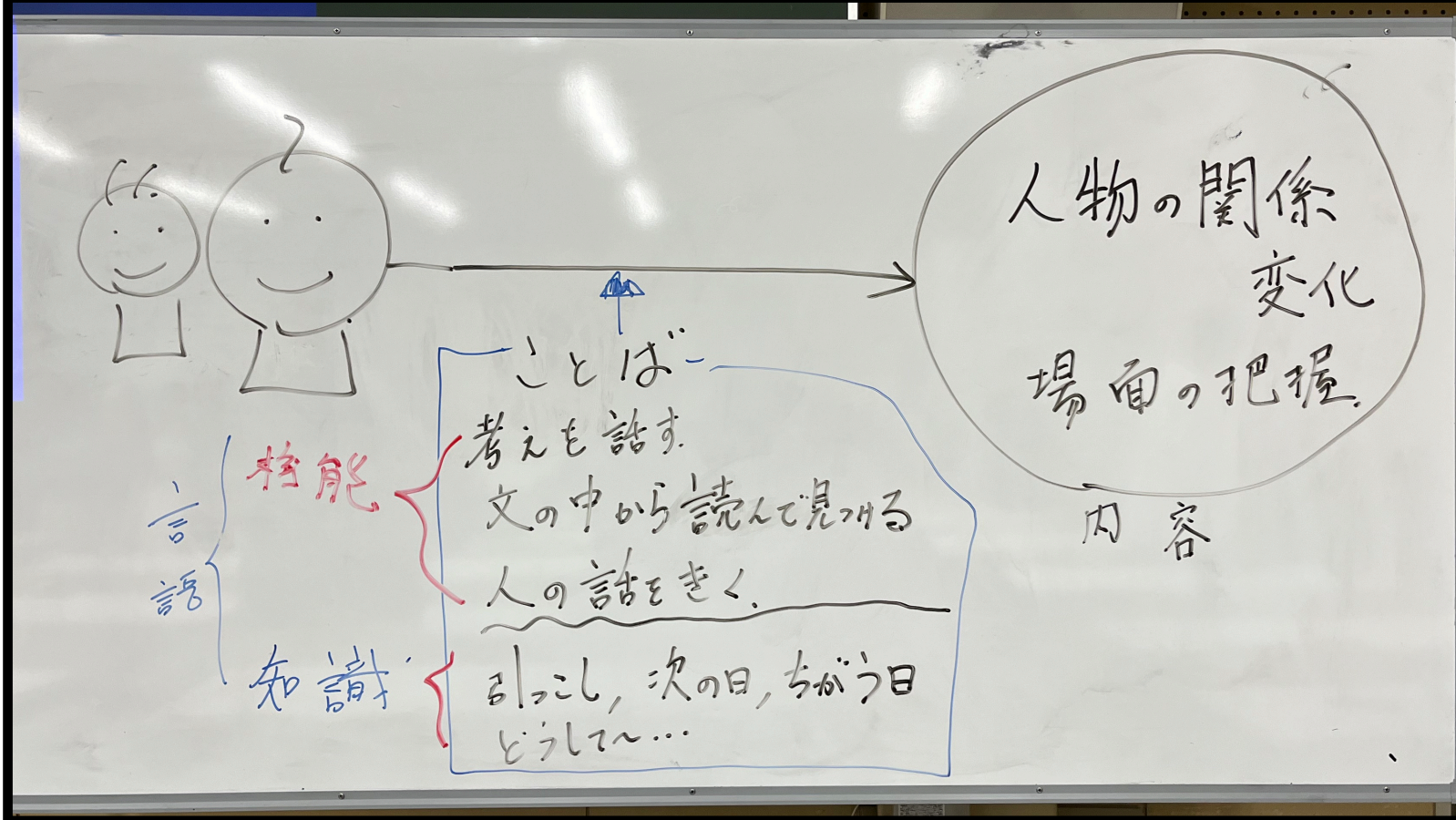
言葉に明示的に焦点を当てる日本語指導の実際
先生はどんな風に「日本語」を教えているの？



中国から来た小学校2年生（来日3ヶ月～半年）

I 知ってから使う

第一言語の学び/教え



II 使いながら知る

第二言語の学び/教え

意味のあるやりとりをする



語彙・文法の獲得につながる



意味のあるやりとりのためには
「リアルな内容」「リアルなやりとり」であることが大事

前回の大澤先生の授業は「国語の『なまえつけてよ』」の学びを「意味のあるやりとり」に見立ててその中で学んでいた

今回の横溝先生の授業も「避難訓練をする」というテーマの中で、「安全」「避難の仕方」を学ぶ中で言葉を〈洗練〉させていく授業になっている

ただし、前回の「国語と日本語の統合」の授業よりも「ことば」の側面に対して明示的

2 見る

来て間もない外国人児童への日本語指導



中国から来た小学校1年生のSさん（来日3ヶ月）
東京都〇〇区の小学校のセンター校式の日本語教室に通っています

「これ」「誰の」「あれ」の学習

概念に当てはめる

横溝先生の授業・赤坂先生の授業
それぞれ、どの領域に入る？

I 知ってから使う

第二言語の学び/教え

語彙・文法などの形式ができる



意味のあるやりとりにつながる

II 使いながら知る

第二言語の学び/教え

意味のあるやりとりをする



語彙・文法の獲得につながる

A

B

C

D

概念に当てはめる

横溝先生の授業・赤坂先生の授業
それぞれ、どの領域に入る？

I 知ってから使う

第二言語の学び/教え

語彙・文法などの形式ができる



意味のあるやりとりにつながる

II 使いながら知る

第二言語の学び/教え

意味のあるやりとりをする



語彙・文法の獲得につながる

意味のあるやりとりの場をつくる→ことばにも気づかせる

- どんなテーマがいいかな？
- それをより洗練するにはどんな言葉ができるといいかな？

その学び手にとって意味のあるやりとりを想起し、そこへ参加するための「ミニмумエッセンシャル（せめてこれだけ）」の言葉には注意を向ける

教えたいことば→ふさわしい意味のあるやりとりをつくる

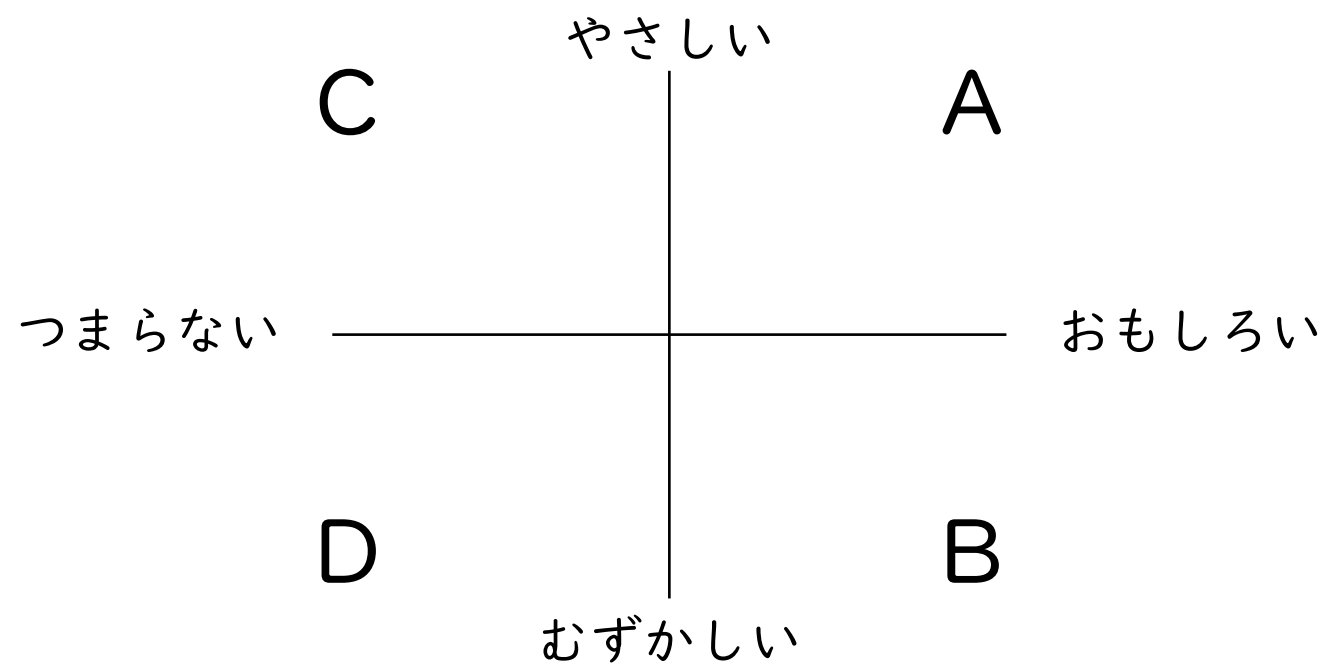
- どんときこの表現を使うかな？
- この子にとってどんな場面を用意するといいかな？

その言葉が使われる例をたくさん浮かべ、その学び手にふさわしい典型場面を想定する

もう少し発展もできるようになる

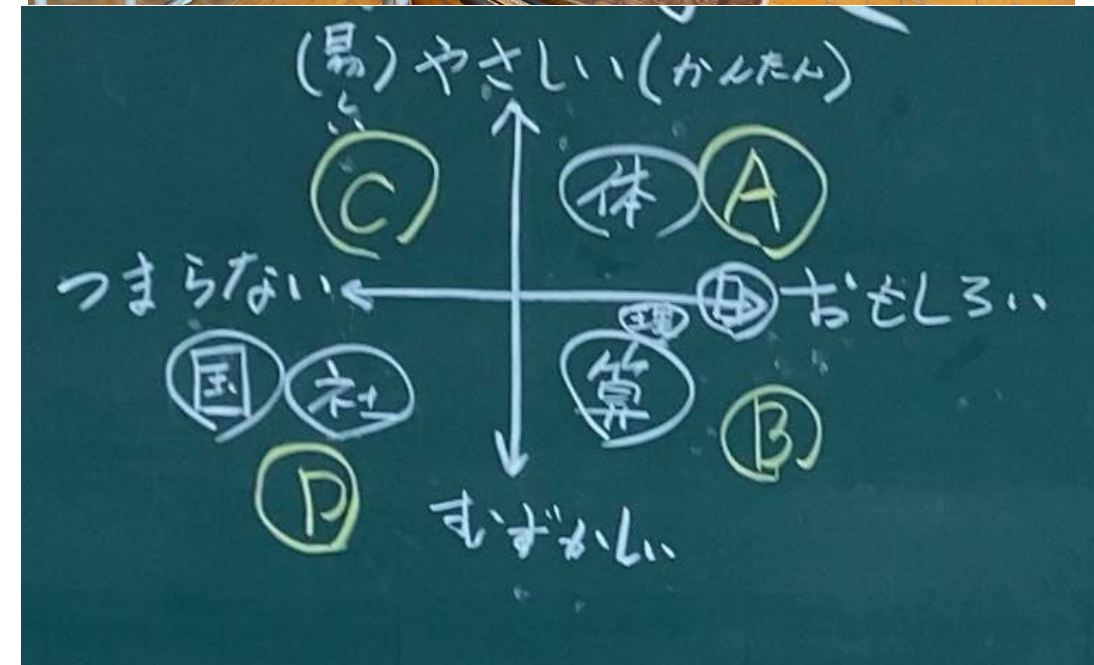
①時間割の教科の名前を確認する

②十字形のマトリックスをつくる



③マトリックスの中に自分の教科を当てはめる

④「大人になるとき、大事」「どこですか？」



限られた語彙・表現でも認知を下げないことは可能
むしろ、学習への参加、発達段階と学習内容を考えれば、「言語を下げても認知は下げない」が大事